

附属高校における10分間読み

－読解力と動機づけの観点からの考察－

英語科 松井孝彦

本研究では、週2回、コミュニケーション英語Ⅰの授業において、10分間のSSR (Sustained Silent Reading) を行った群と行っていない群との間に、読解力やリーディングに対する動機づけにどのような違いが見られるかを調査した。約7ヶ月の実践では読解力に有意な差が認められなかったものの、SSRを行った群ではリーディングに対する不安感が少ないという結果が得られた。

<キーワード>多読 読解力 動機づけ

1 本研究の目的

多読は、教育現場において、検定教科書のみでは十分な言語インプットができないため、どのようにして言語インプットを多くするかという視点から注目を集めていた。21世紀に入り、実践例のみならず実証研究も数多くなされ、読解力の向上や語彙習得、リーディングに対する情意面に肯定的な影響を与える効果があったという報告が増えてきた。

しかし、その実践の多くは、授業外に設定された多読のための特別プログラムや選択授業、学校裁量の時間で行われており、一般の中学校、高等学校において授業時間内に取り組んだ実践による実証研究はそれほど多くは見られない。

そこで、本研究では、以下の点について明らかにしていくこととする。

- a) 高等学校において、授業の中で週2回10分間のSSRを7ヶ月間行った群（以下、多読実践群）と、SSRを行っていない群（以下、多読未実施群）との間に、読解力や読解速度、読解効率に違いが見られるかどうか。
- b) 高等学校において、授業の中で週2回10分間のSSRを7ヶ月間行った群（以下、多読実践群）と、SSRを行っていない群（以下、多読未実施群）との間に、英語でのリーディングに対する動機づけに違いが見られるかどうか。

2 先行研究

1990年以降、日本人学習者に対して行われた多読指導の実証研究については佐藤（2006）が詳しい。それによると、多読の効果は中学生、高校生、大学生を問わず、実力テスト等の結果に見られる英語力、読解力、読解速度が向上する結果となって現れている。また、学習者が英語やリーディングに対する自信、意欲、楽しさを感じているかどうかを調査した研究や、L2リーディングに対する動機づけについての研究の結果では、多読は英語やリーディングに対する情意面に効果があると述べてられている。また、Takase（2007）では、高校2年生219名に対して1年間多読プログラムを行った結果、L2リーディングの動機づけにはL1リーディングとL2リーディングの内発的動機や保護者・家族のリーディングに対する態度、入試に関連した外発的動機が影響していると述べられており、多読量を説明する因子として、L1リーディングとL2リーディングの内発的動機があるとしている。

多読実践の方法や期間に着目を見ると、先行研究の多くが授業外に設定された多読のための特別プログラムや選択授業で行われており、期間も3週間から1年4か月と幅が広い。授業の中で多読を行った実践例としては、例えば横森（2000）と宇佐美（2005）があるが、横森（2000）は定時制高校における1コマ90分授業の中のおよそ25分を多読に当てた実践であり、宇佐美（2005）は週3時間以上の英語授業がカリキュラムに組み込まれている私立中学校の実践である。学習指導要領で定められている単位時間での、英語授業の中での多読実践研究はあまり見られない。

そこで、筆者らの研究グループが、週1回、授業開始時10分間で継続的に行うSSR多読活動（10分間多読）により、中学生や高校生の読解力や動機がどのように変化するかを調査した（Fujita & Noro, 2009; Matsui & Noro, 2010）。そして、10分間多読でも読解速度、読解効率、情意面での向上が見られた。この結果は一般的な多読に関する先行研究と符合するものであった。しかし、多読実施群と未実施群とを比較して多読の効果を検証した研究は、中学生を対象としたMatsui & Noro（2010）のみであったため、本研究にてこの点を補おうと考えた。

3 研究方法

(1) 被験者

本研究の被験者は、高校1年生の2学級80名から76名を抽出した（多読実施群；1学級38名、多読未実施群；1学級38名）。各群とも、読解力検査当日に欠席をした者と、読解力検査の問題を全て解答できなかった者を被験者から除外した。また、多読実施群の中に、高校入学以前に本研究で教材として用いる本を読んだことのある者が1名いたため、この生徒も除外した。多読未実施群の中に、以前教材として用いる本を読んだ者はいなかった。

(2) 使用教材と多読の実践手順

使用教材には、SSS 英語学習法研究会による多読用図書の「読みやすさレベル」(YL)を参考にして、YL0.1から4.0までのGRやLR（Cambridge, HarperTrophy, Macmillan, Oxford, Penguin, Random House, Scholastic, and Thomson等）、英語の児童書およそ1,100冊を準備した。それらの本を6つのレベルに分け（表1）、生徒が難易度に応じて本を選びやすいように配置した。

本はレベル別（難易度別）でかご及び本棚に収納した。また、本には通し番号を付けた。それぞれの本の表紙には図書用の分類シール（各レベルにより色分けがされたもの）を貼った。分類シールは3段になっており、上から「通し番号」「ジャンル」「その本の総語数」を書いた。

このようにして準備した多読用教材を使用して、以下のような手順で多読実践を行った。

- ① 休憩時間中に、生徒はET教室（特別教室の一つで多読用図書の保管場所）へ移動する。
- ② 教師は、教室の前面に、YellowレベルとGreenレベルの本が収納されたかごを並べる。
- ③ 休憩時間中に、生徒は、かごまたは本棚から本を1冊選んで座席に戻り、読書を始める。
- ④ 時間内に読み終えた場合、感想用紙に読後の感想を記入し、本を返却する。
- ⑤ ④で本を返却した生徒は、次に読む本を選び、座席に戻る（以降④と⑤の繰り返し）。
- ⑥ 始業後10分経過した段階で、教師が終了の合図を出す。
- ⑦ 生徒は感想用紙に必要な事項を記入する。時間内に一冊読み終えられなかった生徒には、読んでいた本のページ数を記録させ、続きから読むことができるようにさせる。
- ⑧ 読書終了5分後、生徒に本をもたせたまま、授業を開始する。
- ⑨ 終業後、生徒は図書を返却する。

レベル	レベル分け (SSSのYL)	主なジャンル (SSS書評システム)	冊数
Yellow	0.0 - 0.3	幼児向け、古典、動物	252
Green	0.4 - 0.6	幼児向け、古典、ほのぼの、動物、フィクション、自然科学、喜劇、実話	227
Blue	0.7 - 1.1	幼児向け、古典、人間もの、推理もの、フィクション犯罪もの、学園青春物	265
Red	1.0 - 2.0	ほのぼの、喜劇・風刺、推理もの、恋愛、人間もの、犯罪もの、伝記もの	201
Purple	2.0 - 3.0	喜劇・風刺、推理もの、恋愛、人間もの、犯罪もの、伝記もの	101
Gray	2.8 - 4.0	喜劇・風刺、推理もの、恋愛、人間もの、犯罪もの、伝記もの	48

表1 多読用教材のレベル、ジャンル及び冊数

(3) 多読実践期間

多読実践群は、2014年4月末から2014年12月中旬までの、夏季休業を除くおよそ7ヶ月間40回（およそ400分）、多読用図書を読んだ。

(4) データ収集

(a) 読解力、読解速度、読解効率に関して

授業の中で週2回行われる10分間多読が読解力や読解速度、読解効率を高めるかどうかという点を調査するために、多読実施群、未実施群とも、12月中旬に読解力検査を行った。多読実施群と未実施群は、2学期に行われた定期試験の結果から等質であると判断された。

読解力検査の問題には、EPER (Edinburgh Project on Extensive Reading) のテスト LEVEL G の Version 1 (全18問、24点満点) を用いた。試験中は大型タイマーを教室の前に設置し、全問題を解答し終えたところで、検査にかかった時間を生徒に各自記録させた。その時間と EPER のテストの総語数から読解速度 (総語数 ÷ 読みにかかった時間 (秒) × 60) を算出した。さらに、読解効率には、読解速度 × 試験の正答率で算出した数値を用いた。

(b) 動機づけ

授業の中で週2回行われる10分間多読が生徒のL2リーディングに対する動機づけにどのように影響を与えるかを調査するために、松井 (2013) でも使用をした『『英語で読むこと』に関するアンケート』(資料1) を用い、読解力検査の後、多読実施群と未実施群に記入させた。これは Takase (2007) のアンケートを参考にして作成されており、第二言語学習や教育心理学の知見を基に、10分間多読に対する評価に関する項目を加えた全31項目で構成された、5件法のアンケートとなっている。

4 結果

多読実践期間の7ヶ月間で、多読実施群の生徒が読んだ語数は表2の通りであった。

最小語数	平均語数	最大語数
3,396	14,201	29,469

表2 多読実施群(n=38)の読語数

(1) 読解力、読解速度、読解効率

多読実施群 (n=38) と多読未実施群 (n=38) について、読解力、読解速度、読解効率の分布図を作成した (図1 ~ 図3)。読解力には、得点ではなく正答率を用いた。

読解力、読解速度、読解効率とも、多読実施群と多読未実施群との平均の差を、有意水準5%で両側検定のt検定により検討した。その結果、読解力に関しては、 $t(74) = 0.92$, $p = 0.36$ であり、これらの平均値の差は有意ではなかった。同様に、読解速度に関しては $t(74) = 0.80$, $p = 0.43$ 、読解効率に関しては $t(74) = 1.073$, $p = 0.29$ であり、これらの平均値の差も有意ではなかった。

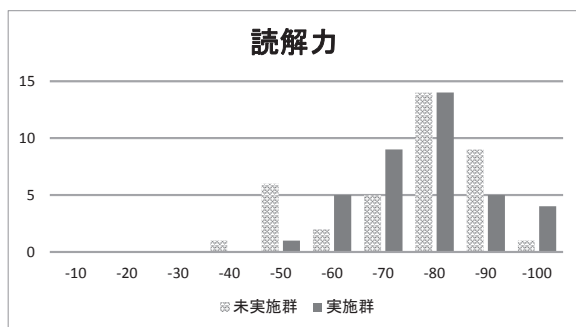


図1 読解力の得点分布図

	M	SD	t
多読未実施群 (n=38)	69.92	14.4	-0.92
多読実施群 (n=38)	72.74	12.07	

$p > .05$

表3 読解力の分布結果

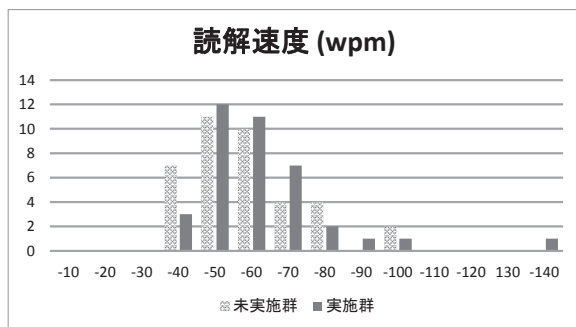


図2 読解速度の得点分布図

	M	SD	t
多読未実施群 (n=38)	54.87	14.62	-0.8
多読実施群 (n=38)	57.84	17.58	

$p > .05$

表4 読解速度の分布結果

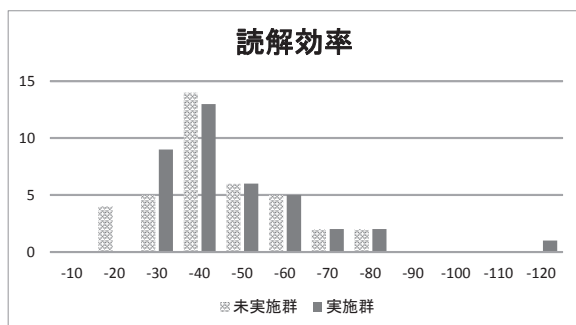


図3 読解効率の得点分布図

	M	SD	t
多読未実施群 (n=38)	39	14.87	-1.07
多読実施群 (n=38)	43.13	18.5	

$p > .05$

表5 読解効率の分布結果

(2) 動機づけ

英語で読むことに関するアンケートの31項目について、多読実施群と多読未実施群のそれぞれに答えさせた。各項目を5件法で答えさせた結果が資料2であるが、「5. あてはまる」に回答が偏った項目 ($M+SD > 5$: 天井効果) と「1. あてはまらない」に偏った項目 ($M-SD < 1$: フロア効果) が1項目を除いてそれぞれ異なった (表6)。天井効果が見られる項目には「25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい」が共通した項目としてあがったものの、多読実施群では「英語で読むこと」や易しい本を多く読む多読活動に対する肯定的な項目が多かったことと比べて、多読未実施群では「英語で読むこと」に対する不安感を示す項目が多かった。また、フロア効果が見られる項目については、多読実施群では一つもなかったことと比べて、多読未実施群では10個の項目があがった。

「5. あてはまる」に偏った項目		「1. あてはまらない」に偏った項目	
多読実施群	多読未実施群	多読実施群	多読未実施群
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	なし	2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	18. 知らない単語が出てくると、すぐに辞書を引きたくなる。		3. 大学、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。		5. 大学入試に合格するために英語の本を読むようにしている。
14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。		7. 成績を上げるために英語の本を読む(読んでいる)。
19. 英語の本を読むことはおもしろい。			11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む(読んでいる)。
25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。			13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む(読んでいる)。
			15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)。
			17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。
			26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。
			29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。

表6 天井効果(あてはまる)及びフロア効果(あてはまらない)が見られた項目

これら10個の項目から共通した因子を見出すことは難しいが、生徒は「英語を読むこと」に対して目的意識をもつことができないのではないかと推察された。

アンケートの項目において、多読実施群と未実施群との間で1ポイント以上の違いが見られた項目については、表7のようになった。

また、英語で読むことに関する31項目について、SPSS 20.0を用いて因子分析(主因子法、プロマックス回転、因子負荷量0.4をカットオフライン)を施した。天井効果やフロア効果が見られた項目もあったが、項目間には互いに相関があると考えたため、今回は31項目全てを分析の対象とした。その結果、多読実施群では資料3のような因子パターン行列が、未実施群では資料4のような因子パターン行列が、それぞれ得られた。分析の結果、どちらも因子を4因子に分けることができた。

多読実施群について、第1因子では項目29の解釈が難しいものの、項目28、2、29、7、13、3、5のまとめりと、項目2、11、13のまとめりに着目をし、「入試・実用」と命名した。第2因子では項目9がマイナスになっていることに着目をし、「興味・関心」と命名した。同様に、マイナスになっている項目に着目しながら考え、第3因子では集中して精読に取り組む姿が想起されることから「情報収集・詳細な情報の理解」と、第4因子では不安感をあまり感じないような項目が集まっているので、リーディングに対する「マイナスの不安感」と、それぞれ命名した。

多読未実施群について、第1因子では項目17の解釈が難しいものの、授業で書かせた英文を評価することが多いことを考慮に入れると「入試・成績」と命名することができると考えた。第2因子は「興味・関心」と、第3因子は「易しい本への肯定感」、第4因子は「実用」と、それぞれ命名した。

項目	実施群	未実施群	差
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	4.53	3.42	1.11
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	3.42	1.84	1.58
3. 大学、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。	2.97	1.71	1.26
5. 大学入試に合格するために英語の本を読むようにしている。	2.89	1.84	1.05
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	4.50	3.00	1.50
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	3.71	2.45	1.26
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	4.34	2.74	1.61
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	4.32	2.92	1.39
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	2.71	3.82	-1.11

表7 多読実施群と未実施群との差が大きな項目

5 考察

(1) 読解力、読解速度、読解効率に関して

読解力、読解速度、読解効率とも、本研究では多読の効果が見られなかった。今回の結果は、高等学校における授業の中で週2回の10分間多読を7ヶ月間行う程度では効果がなかったと判断すべきか、金谷他(1992, 1994, 1995)にある6～8か月の潜伏期間が影響していたと判断すべきか、結論を述べることはできない。また、今回読解力検査に利用した EPER LEVEL G の問題が容易であったため、多読実施群のみならず多読未実施群の生徒も速く正確に読むことができたのではないかと考えられる。

読解力、読解速度、読解効率とも、わずかながらではあるが多読実施群が高い数値を示しており、図1～図3からも多読実施群には速く正確に読むことのできる生徒がいることが分かる。今後は、潜伏期間の影響を考慮する必要のない長期の多読実践を行い、被験者の読解力を図るために適している読解力検査問題を用いて、読解力、読解速度、読解効率に関する効果を検証する必要があると考える。

(2) 動機づけに関して

動機づけに関しては、多読実施群と多読未実施群との間に違いが見られた。アンケート結果における天井効果を示している項目から、多読実施群は易しい本を読むことと英語で本を読むことに対して肯定的な感情を抱いている様子が、多読未実施群は英語を読むことに対して不安感を抱いている様子が見られた。これは、各群のアンケート結果の平均値を比較した表7からも判断することができ、天井効果が見られた項目1、6、12、19が、違いが大きい項目として現れている。また、表7の項目24ではマイナスの差が見られることから、多読未実施群はたとえ易しい本であっても英語を読む際には努力が必要であると判断していることに対して、多読実施群は大きな努力を払わなくとも易しい英語の本を読むことができると考えていることが分かる。これらは多読実践の効果と言えるのではないかと考える。さらに、因子分析の結果を比較すると、多読実施群には、多読未実施群には現れなかった「英語で読むこと」に対するマイナスの不安感、つまり英語で読むことに不安をあまり感じないという因子が現れている。この点からも、多読実践により、英語を読むことに対する不安感が取り除かれたのではないかと考えることができる。

因子分析で得られた因子を分類し比較すると、興味深い点を見出すことができる。本研究では、多読実施群の第3因子に多読とは相対する精読を肯定する内容の因子が、多読未実施群の第3因子に実際に取り組んでいない多読を肯定する内容の因子が、それぞれ含まれている。多読実施群については、第2因子で英語を読むことに対する内発的動機が、第4因子で英語を読むことに対する不安感が低いことがそれぞれ見られるため、生徒は多読と精読とのバランスをとりながら英語を読んでいるのではないかと考えることができるであろう。多読未実施群では、実際に多読活動を行っていないことから、生徒が考える易しい本とは授業内や問題集等で読む簡単な英文のことであろうと推察される。そのような英文を読むことに対して、多読未実施群の生徒は抵抗なく楽しむことができているのではないかと考えられる。多読未実施群の生徒に多読実践に取り組ませることで、英語を読むことに対する不安感を軽減させることができるかもしれない。

6 まとめと今後の課題

本研究では、多読実施群と未実施群との間に、読解力、読解速度、読解効率の違いは見られなかつ

たものの、動機づけには多読実践の影響が見られた。どちらも一般的な多読の実証研究と符合する結果であったため、10分間多読は一般的な多読活動と同様の効果を得られると考えることができるであろう。

今後は、考察の点でも述べたように、より長期にわたる多読実践の後に多読実施群と未実施群との比較をし、読解力に関する効果検証を行うことが必要であろう。その際、先行研究ではまず読解速度が上がり、その後に読解力への影響が現れるという報告が多く見られるため、10分間多読でも同様の結果が得られるかどうかに興味深いところである。また、高等学校では学年が進むと高い難易度の英文を読みこなすようになる。そのため、検査に使用する問題の難易度を考慮する必要がある。さらに、正確に多読の効果を検証するためには、多読実践の前と後との読解力のデータを、多読実施群と未実施群の両方で得ておき、交互作用を考察する必要もある。

動機づけの点では、多読未実施群に対して多読に取り組みさせることで、不安感が軽減されていくかどうか、興味深いところである。

10分間という短い時間であっても、継続的に取り組むことにより成果が得られることが分かりつつある。今後も上記のような課題に取り組みながら、10分間多読の教育的効果を検証していきたい。

参考文献

- Fujita, K. & Noro, T. (2009). Effects of 10-minute extensive reading for Japanese high school learners on their reading speed, comprehension and motivation. *Annual Review of English Language Education in Japan* (20), 21-30.
- 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1992) 「英語多読プログラム－その読解力、学習方法への影響－」『研究紀要』第6号 1-12頁 関東甲信越英語教育学会
- 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1994) 「中学生英語多読プログラム－その動機づけと読解力への影響－」『研究紀要』第8号 39-47頁 関東甲信越英語教育学会
- 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1995) 「英語多読の長期的効果－中学生と高校生プログラムの比較－」『研究紀要』第9号 21-27頁 関東甲信越英語教育学会
- Matsui, T. & Noro, T. (2010). The Effects of 10-Minute Sustained Silent Reading on Junior High School EFL Learners' Reading Fluency and Motivation. *Annual Review of English Language Education in Japan* (21), 71-80.
- 松井孝彦 (2013) 「附属高校における10分間多読の実践」『研究紀要』第41号 93-97頁 愛知教育大学附属高等学校
- 佐藤和代 (2006) 「速読練習を取り入れた『多読』授業の効果」『STEP BULLETIN』Vol. 18 92-109頁
- Takase, A. (2007) Japanese high school students' motivation for extensive L2 reading. *Reading in a Foreign Language*, 19-1, 1-18.
- 宇佐美修 (2005) 「第二言語習得を加速させる流暢さのトレーニング－継続的な『多読』 & 『書き出し訓練』の効果－」『STEP BULLETIN』Vol. 17 185-194頁
- 横森昭一郎 (2000) 「授業内多読指導：スターター・レベルの高校生に対する効果」『コミュニケーションと言語教育 (SURCLE)』第2号 5-11頁

資料1 アンケート用紙

「英語で読むこと」に関するアンケート

組 番 氏名 _____

この調査票では皆さんの「英語で読むこと」について尋ねています。自分が英語を読んでいる時を思い出して下さい。それぞれの質問項目について、自分の考え、感じ方にあてはまる廣合いを、下の尺度に従って、1～5の番号で示して下さい。

1 あてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらともいえない 4 ややあてはまる 5 あてはまる

1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。 1 _____

2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む (読んでいる)。 2 _____

3. 大学、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む (読んでいる)。 3 _____

4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。 4 _____

5. 大学入試に合格するために英語の本を読むようにしている。 5 _____

6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。 6 _____

7. 成績を上げるために英語の本を読む (読んでいる)。 7 _____

8. 易しい英語の本を沢山読む自信がある。 8 _____

9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。 9 _____

10. 友達感想を聞いて英語の本を (更に) 読もうと思った。 10 _____

11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む (読んでいる)。 11 _____

12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦勞はない。 12 _____

13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む (読んでいる)。 13 _____

14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。 14 _____

15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む (読んでいる)。 15 _____

16. 授業での課題だから英語の本を読む (読んでいる)。 16 _____

17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む (読んでいる)。 17 _____

18. 知らない単語が出てくると、すぐに辞書を引ききたくなる。 18 _____

19. 英語の本を読むことはおもしろい。 19 _____

20. 英語の本を読むと英文学を理解でき、その良さがよく分かるようになる。 20 _____

21. 英語の本を読んで視野を広げたい。 21 _____

22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。 22 _____

23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。 23 _____

24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。 24 _____

25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。 25 _____

26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。 26 _____

27. 英文を読んでいる、少しくらい内容が分からなくても気にしない。 27 _____

28. 大学入試の長文に強くなるように英語の本を読む (読んでいる)。 28 _____

29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。 29 _____

30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。 30 _____

31. 英語の勉強の中ではリーディングが好きだ。 31 _____

資料2 アンケート結果の記述統計

項目	多読実施群 (n=38)		多読未実施群 (n=38)	
	平均(M)	標準偏差(S)	平均(M)	標準偏差(S)
1	3.42	1.35	4.53	0.65
2	1.84	1.00	3.42	1.20
3	1.71	0.98	2.97	1.28
4	3.45	0.95	4.05	0.93
5	1.84	1.03	2.89	1.16
6	3.00	1.27	4.50	0.89
7	1.87	0.93	2.84	1.08
8	2.45	1.22	3.71	0.93
9	4.03	1.24	3.18	1.11
10	2.21	1.02	3.16	1.35
11	2.00	1.01	2.79	1.14
12	2.74	1.18	4.34	0.71
13	1.89	1.01	2.76	1.00
14	3.61	1.15	3.74	1.27
15	1.58	0.64	2.13	1.02
16	2.84	1.22	2.92	1.10
17	1.92	1.15	2.37	1.22
18	4.03	1.08	3.74	1.00
19	2.92	1.19	4.32	0.87
20	2.92	1.05	3.24	0.97
21	3.42	1.24	3.95	0.96
22	3.45	1.22	3.79	0.93
23	4.03	1.17	3.24	1.38
24	3.82	1.06	2.71	0.98
25	4.61	0.59	4.79	0.41
26	2.13	1.14	2.79	1.26
27	3.63	1.02	3.63	1.15
28	2.42	1.31	3.39	1.20
29	1.47	0.65	2.16	0.86
30	2.89	1.33	3.50	1.25
31	2.87	1.17	3.66	0.85

資料3 多読実施学級における、「英語で読むこと」に関する動機づけの因子分析

	第1因子 入試・実用	第2因子 興味・関心	第3因子 情報収集・ 詳細な理解	第4因子 一の不安感	信頼性
28. 大学入試の長文に強くなるように英語の本を読む (読んでいる)。	.918	-.196	-.076	-.019	
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む (読んでいる)。	.813	.016	.001	.115	
11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む (読んでいる)。	.740	-.039	.032	-.055	
29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	.626	-.150	-.011	.069	
7. 成績を上げるために英語の本を読む (読んでいる)。	.601	.252	-.327	-.139	0.86
13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む (読んでいる)。	.595	.057	.271	-.165	
3. 大学、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む (読んでいる)。	.543	-.070	.250	.421	
5. 大学入試に合格するために英語の本を読むようにしている。	.471	.075	.005	-.228	
4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。	-.067	.846	.173	-.092	
21. 英語の本を読んで視野を広げたい。	-.055	.742	.225	-.246	
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	.031	.657	.083	.206	
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦勞はない。	-.119	.600	-.264	.130	0.83
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	.166	.598	-.341	-.138	
9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	.141	-.577	.047	-.139	
31. 英語の勉強の中ではリーディングが好きだ。	-.137	.554	-.103	.098	
30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。	-.193	.522	.461	-.173	
22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。	-.121	-.050	.629	.239	
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	.083	.431	-.610	.208	
26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。	.062	.283	.573	-.097	
17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む (読んでいる)。	.159	.131	.566	-.206	0.72
14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。	.016	.185	-.486	.035	
15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む (読んでいる)。	.264	.030	.483	.369	
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	.280	-.095	.211	-.716	
23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	.058	-.004	-.132	-.644	
10. 友達感想を聞いて英語の本を (更に) 読もうと思った。	.342	.157	.055	.459	0.64
27. 英文を読んでいる、少しくらい内容が分からなくても気にしない。	-.007	.024	-.031	.434	
因子間相関	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	
第1因子	1.000	.266	.309	-.127	
第2因子		1.000	.146	.222	
第3因子			1.000	-.062	
第4因子				1.000	

資料4 多読未実施学級における、「英語で読むこと」に関する動機づけの因子分析

	第1因子 入試・成績	第2因子 興味・関心	第3因子 易しい本への 肯定感	第4因子 実用	信頼性
7. 成績を上げるために英語の本を読む（読んでいる）。	1.045	.015	-.228	-.262	
3. 大学、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む（読んでいる）。	.941	-.128	.139	-.006	
5. 大学入試に合格するために英語の本を読むようにしている。	.857	-.151	.099	.014	
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む（読んでいる）。	.809	-.003	.051	.070	0.88
17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む（読んでいる）。	.688	-.019	-.079	.189	
29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	.564	-.039	-.161	.275	
9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	-.449	.182	-.012	-.086	
20. 英語の本を読むと英文学を理解でき、その良さがよく分かるようになる。	-.154	.932	.039	-.258	
21. 英語の本を読んで視野を広げたい。	-.004	.887	-.191	.014	
30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。	-.091	.787	.003	.250	
10. 友達の感想を聞いて英語の本を（更に）読もうと思った。	-.250	.522	.056	.261	0.84
4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。	.429	.464	-.130	-.121	
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	.366	.409	.269	-.160	
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	-.247	.088	.789	.154	
8. 易しい英語の本を沢山読む自信がある。	.021	.048	.751	-.118	
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	.020	.083	.624	-.247	
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	-.076	.265	-.585	-.075	0.79
31. 英語の勉強の中ではリーディングが好きだ。	.114	-.123	.516	.183	
27. 英文を読んでいて、少しくらい内容が分からなくても気にしない。	-.112	-.044	.468	.099	
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	.316	.122	.403	-.178	
18. 知らない単語が出てくると、すぐに辞書を引きたくなる。	.048	.144	-.043	-.742	
15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む（読んでいる）。	.235	.123	-.072	.487	
13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む（読んでいる）。	.405	.163	.147	.467	0.83
11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む（読んでいる）。	.311	.253	.033	.455	
28. 大学入試の長文に強くなるように英語の本を読む（読んでいる）。	.366	.143	.028	.452	
因子間相関					
第1因子	1.000				
第2因子		1.000			
第3因子			1.000		
第4因子				1.000	